



訪日外国人を対象とした複合医療リゾートの提案  
 浜名湖の水辺環境と先進医療を組み合わせた施設の設計

訪日外国人の増加が目される中、本提案では医療観光客に着目した。従来までの病院空間の再構築を行い、医療観光客の更なる誘致に向けた多様なサービス展開と長期滞在化にむけた療養環境の整備を行うために、「医療」と「リゾート」を複合し、日本独自の空間性を付加させた新たな医療リゾート施設を提案した。医療観光の世界的な市場が激戦化する中、日本の保険制度下で周辺アジア諸国との医療費の価格競争において優位に立つことは難しい。今、日本が誇る先進医療を用いた入院治療を核に、日本独自の空間性を有する医療施設の在り方が求められているのである。

2010年6月	新成長戦略 7つの戦略分野のひとつに「健康」があげられ、外国人患者受け入れ、医療観光の促進が盛り込まれる。
2011年1月	医療滞在ビザの創設
2011年4月	海外からの問い合わせをゼロにして Medical Excellence JAPAN(MEJ) ウェブサイトとコールセンターを設営
2011年10月	MEJが法人化し、外国人患者受け入れを促進
2012年	外国人患者受け入れ医療機関認定制度(JMIP)を創設。2015年10月現在11か所承認
2013年4月	MEJがアウトバウンド事業を主業とする組織に改編
2013年6月	安倍政権の「日本再興戦略」で、医療の国際展開が重要施策に位置づけられる。
2013年8月	西園官邸に「健康・医療戦略推進本部」を設営
2015年9月	医療観光振興を牽引してJTBなどの2社が認定される。

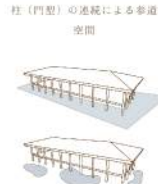


現在日本には年間5~6万人ほどの医療観光客が訪れているといわれている。このような数値の背景には2010年の新成長戦略で戦略分野に「健康」が掲げられたことや、昨2011年には医療滞在ビザの規制緩和など、日本も国を挙げて医療観光を誘致し始めていることが上げられる。

医療観光

医療観光とは、医療行為を受けることを主目的として海外に移動することをいいます。

訪日外国人を魅了する日本建築や独自の空間性

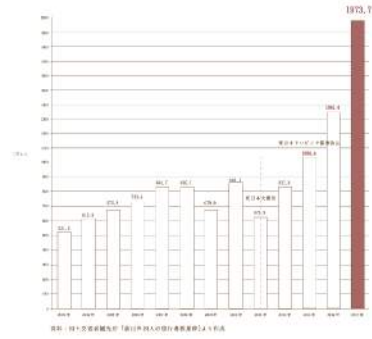


平面的な構成と廊の誘導引きによる空間の変化

順位	観光地名所	所属
1	伏見稲荷大佛	寺院・神社仏閣
2	弘明寺指染金堂彫刻	寺院
3	神宮寺	寺院・神社仏閣
4	東大寺	寺院・神社仏閣
5	法隆寺 金堂堂	寺院・神社仏閣
6	嵯峨野御霊園	公園
7	山梨山 龍之社	寺院・神社仏閣
8	三ツノテ 稲荷寺	寺院
9	伊豆山 稲荷大佛	木造大佛
10	信濃県庁の観光施設	美術館
11	金沢市	寺院・神社仏閣
12	善光寺	寺院
13	善光寺	寺院
14	高野山 新羅寺	寺院・神社仏閣
15	善光寺	寺院・神社仏閣
16	長崎	寺院
17	徳島市 土まらいまし	観光
18	善光寺	寺院
19	了徳寺工場	美術館
20	善光寺	寺院
21	長崎	寺院・神社仏閣
22	長崎	寺院・神社仏閣
23	白川郷	日本伝統建築
24	三ツノテ	寺院・神社仏閣
25	善光寺	寺院・神社仏閣
26	伊豆山 稲荷大佛	木造大佛
27	三ツノテ 稲荷寺	寺院
28	山梨山 龍之社	寺院
29	山梨山 龍之社	寺院
30	六本木ヒルズ展望台	展望台

訪日外国人が訪れる観光地を見ると、上位30位中、拝観所の観光地が9社や神社仏閣、日本庭園などといった日本独自の空間性や文化を有する場所になっている。

日本独自の空間性



国土交通省観光庁によると2000年代から増え始めた訪日外国人観光客数は東京オリンピック開催が決まった2013年歳に42.1万人の年間1000万人台を突破している。その後、昨年2015年度末には約1973万7千人にも達した。

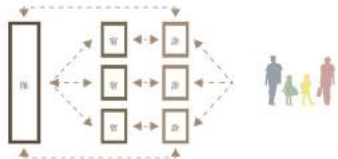
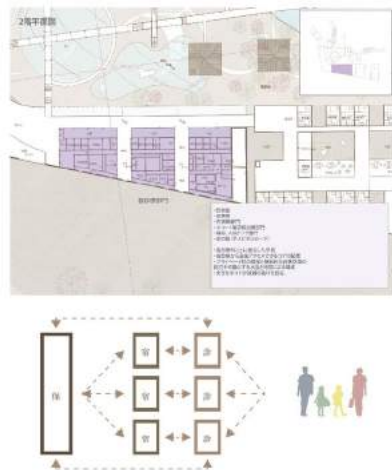
訪日外国人の増加







各治療部門は、多国籍な医療観光客のプライベートを確保するために、分別配置されている。診療部ごとにコアを配置することで患者は受診項目に応じてアクセスした後、そのまま宿泊施設やリゾートへとアクセスすることができ、診療室は従来の白を基調とし閉鎖的だった空間から、水と光の演出によって開放的な空間を目指した。



宿泊室および診療スペースは浜名湖に面した位置に設置し良好な眺望を傾斜面によって確保している。  
また前面にはホスピタリティと緑地を緩衝帯として設置し、視線の抜けを作りながらも、リゾート部分と敷設部分の住み分けを行っている。夏は全面的可変式カーテンラオールドが「振り戸」のように開き涼しい風を引き込む。  
加えて北側向きの計画とすることで新築地帯の安定化を図りながら、浜名湖の景色を楽しみながら治療・保養を行うことができる空間性を作り出した。



池原に富士を望む



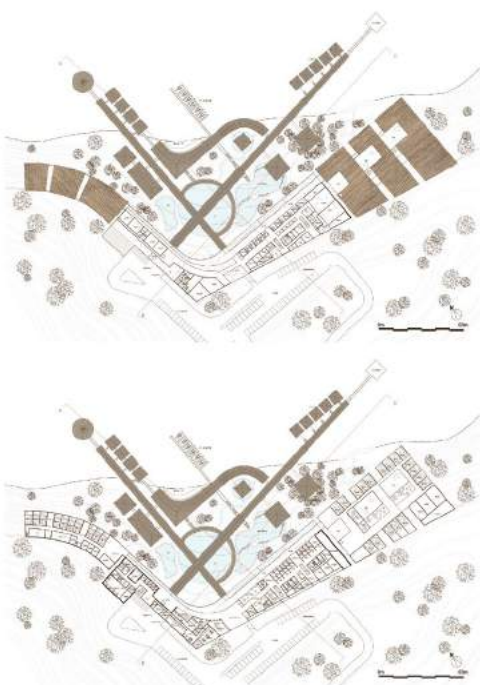
水と光のお部屋



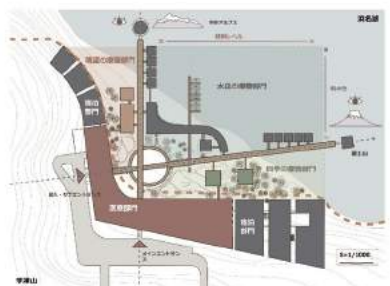
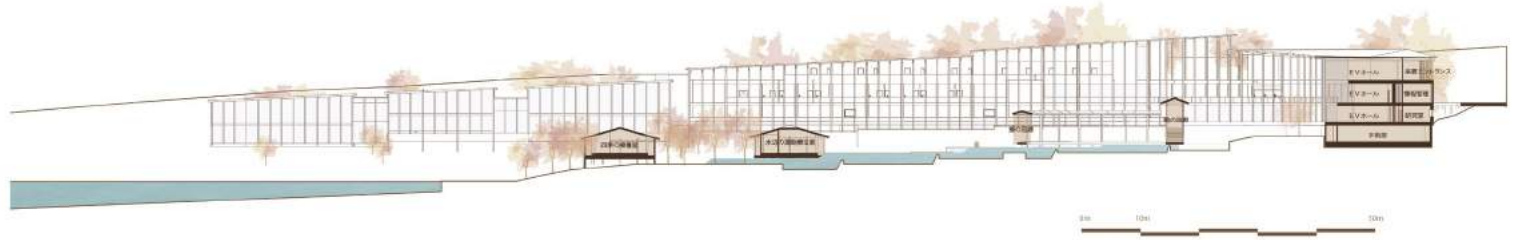
千本島湖の上へ回廊を架す



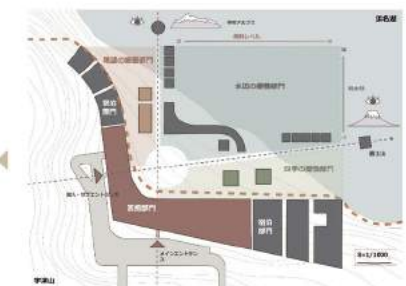
眺望を生かした家族病床



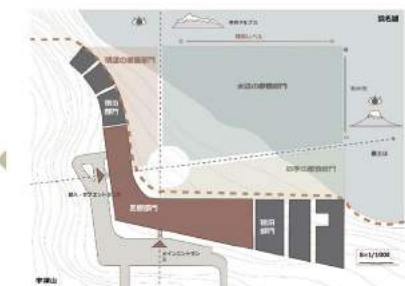
BB' 断面図



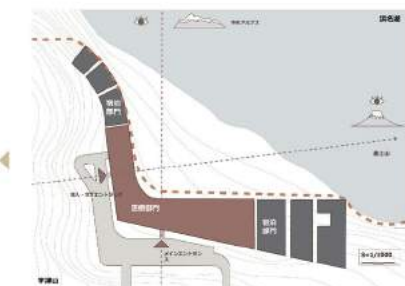
最後に大きな二つの軸を中心とした回廊空間とランドスケープによってこれらを繋ぎ、施設全体を一つのリゾート空間として患者が利用できるような動線を確保します。



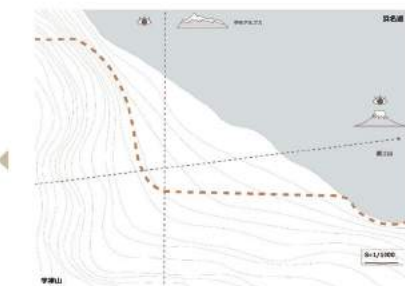
この3つのエリア特性に合わせ、療養機能を配置します。例えば同様のオレンジ部分は急こう配で防水性が高く、比較的医療部門に近いため、静かに海辺を歩みながら療養を行えるような、アトモスフィアや眺望を活かした大気感のためのアラスナが配置されます。



続いて、この二つの軸と、敷地の傾斜レベル、水辺との距離感による風水性、植樹との距離感によって大きな3つの特徴を持つエリアにゾーニングを行いました。



この傾斜と宇津山の傾斜レベルに合わせて、医療部門と宿泊部門を配置します。よりプライベートな空間を作り出すように敷地を囲い込み、傾斜面に合わせて1床から家族前後室まで東西に分けて配置します。また各治療部門地下にはサービス部門が配置され、各国の文化や食習慣に合わせてサービスを行います。



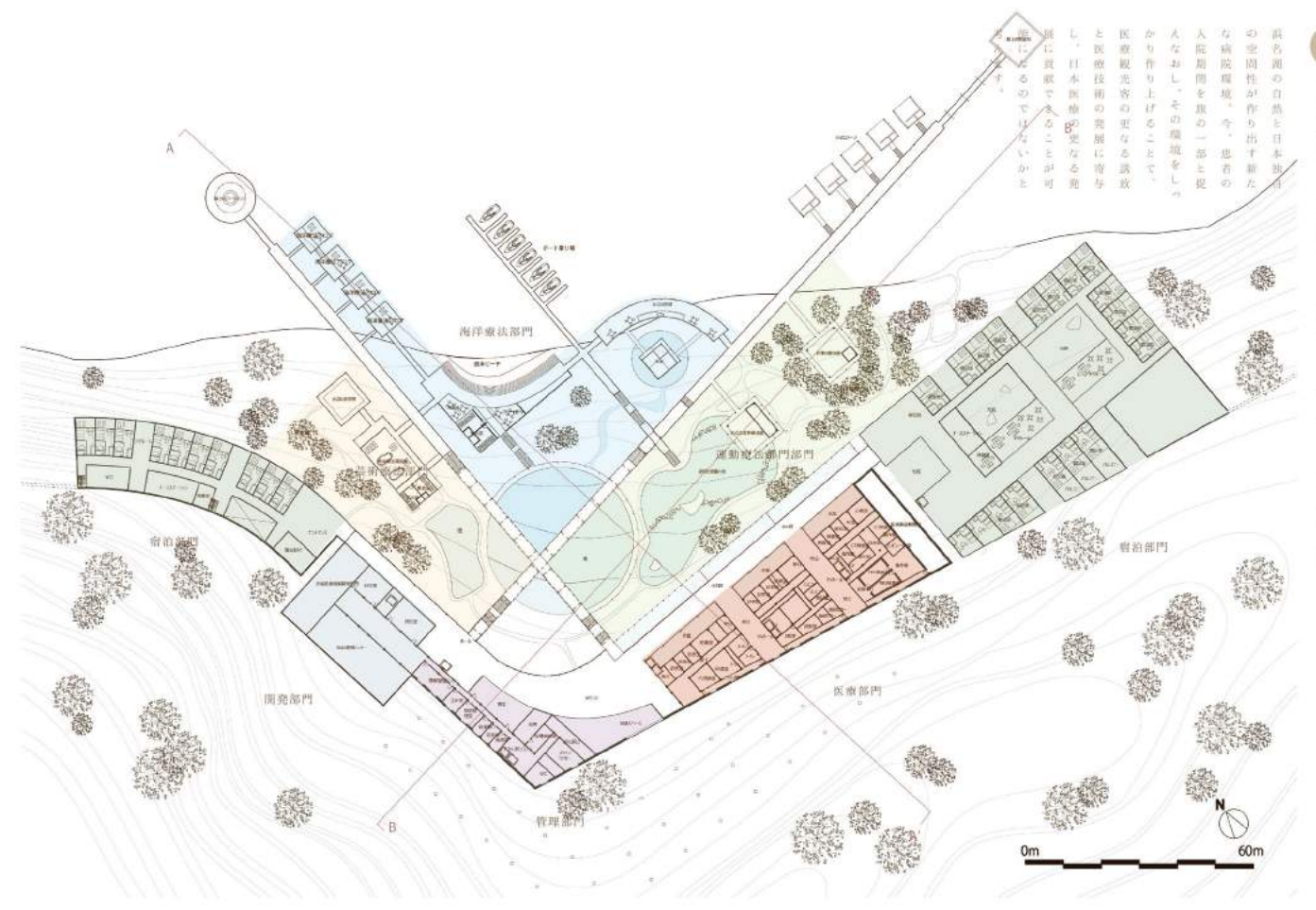
計画地はブランドラインから頂上部分まで約40mの高差を持ちます。この傾斜に対して北側は中央アスエスに向けた軸と、南側は富士山に向けた軸を配置します。



浜 浜名湖の自然環境と特性を生かした平面配置

建築計画

浜名湖の自然と日本独自の空間性が作り出す新たな病院環境。今、患者の入院期間を短くし、患者の心なほし、その環境をしっかりと作り上げることで、医療観光客の更なる誘致と医療技術の発展に寄与し、日本医療の更なる躍進に貢献できるのではないかとする。



浜名湖の水辺を生かした海洋療法



四季折々の変化を楽しみながらの運動療法



患者を誘うホッとできるロビー

